

プロセス改善推進者育成コース

☑改善推進者の役割

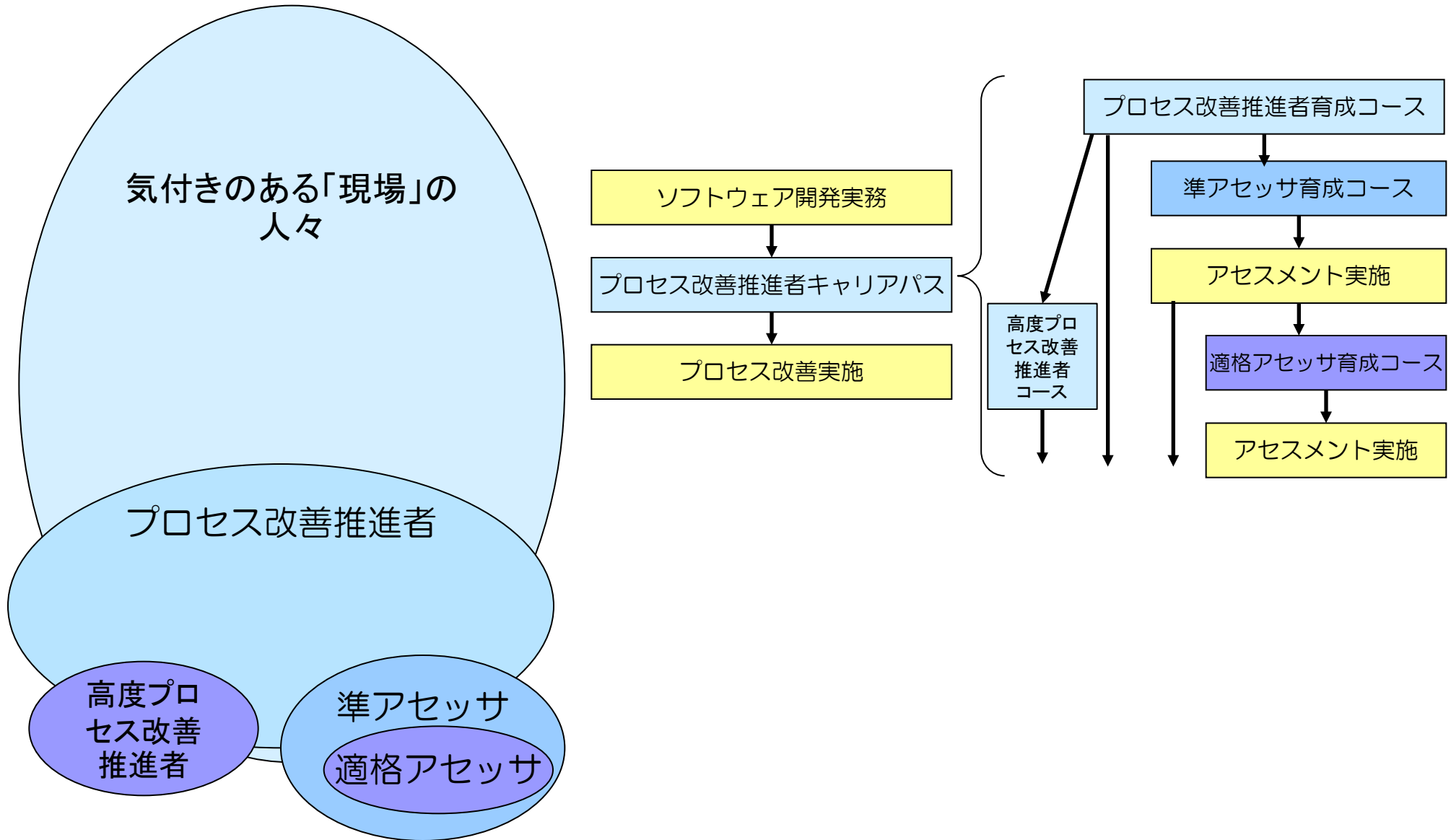
独立行政法人 情報処理推進機構
技術本部ソフトウェア・エンジニアリング・センター

プロセス改善WG NPT1
委員 伏見 諭

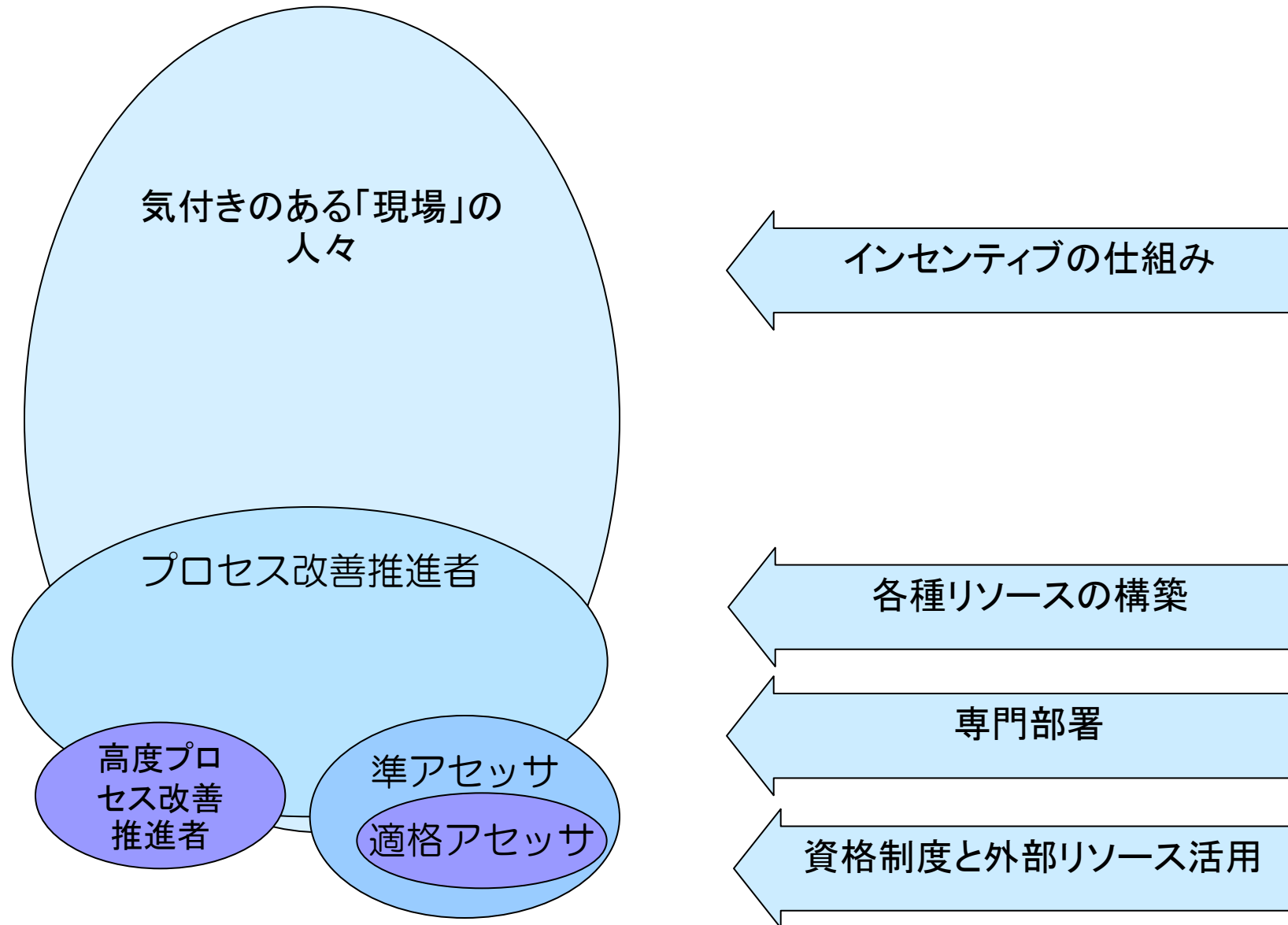
1. プロセス改善推進者とは
2. プロセス改善の主体
3. 改善の組織構造
4. 推進者に必要な知識
5. 推進者に必要なスキル
6. 推進者のキャリアパス
7. 改善の基本留意点



プロセス改善推進者とは



- 「現場」の人々が、自分自身の仕事のやり方を変えていくのが基本目的
 - 「推進者」が代行することはできない
 - 「推進者」が、ヒントを出し、現場とともに知恵を寄せ合うことは可能だし、重要
 - 「管理者」は、それらの機会、リソース(費用、時間、要員)を確保することが重要
 - 奨励、インセンティブ付与、横展開の仕組みの開発も重要
 - プロセス改善の知識・ツール・データ蓄積のセンター構築などの仕組みも重要



◆ 開発に適用される新技術に関心を持つ（プロセスの豊富な知識）

◆ プロセスの知識

➤ 顧客—供給者プロセスグループ

- ・ P.1.1 取得準備プロセス、P.1.2 供給者選択プロセス、・・・、etc.

➤ エンジニアリングプロセスグループ

- ・ P.2 供給プロセス、P.3.1 要求事項抽出プロセス、・・・、etc.

➤ 支援プロセスグループ

- ・ S.1 文書化プロセス、S.2 構成管理プロセス、・・・、etc.

➤ 管理プロセスグループ

- ・ O.1.3 プロジェクト管理プロセス、O.1.4 品質管理プロセス、・・・、etc.

➤ 組織プロセスグループ

- ・ O.1.1 組織に関するアライメントプロセス、・・・、etc.

◆ エンジニアリング、ツールを始めとした多岐にわたる最新知識の習得

◆ 自社への適合性に十分に留意する

◆ 改善事例の経験と分析

- 他社事例（SECのベストプラクティス事例など）
- セミナー、ワークショップなど（JISA、JASPIC、NSPICE、SEA－SPINなど任意団体及びコマーシャルベースセミナーを含む）

◆ 問題の深い分析

- なぜなぜ分析や、問題の相互関係の分析
- 技術課題の検討
- チームと関係者の人的な関係やコミュニケーションの検討

◆ 現場の納得と意欲

◆ 分析と納得の手段

- ◆ 図解、印象的な文言、音声

- ◆ 動作、トライアル、実情の見える化

◆ 調査を活用したい

◆ 目標達成による納得

- ◆ 同じ思想でしぼることはしない

- ◆ 達成した目標の次のステップの提案を引き出す

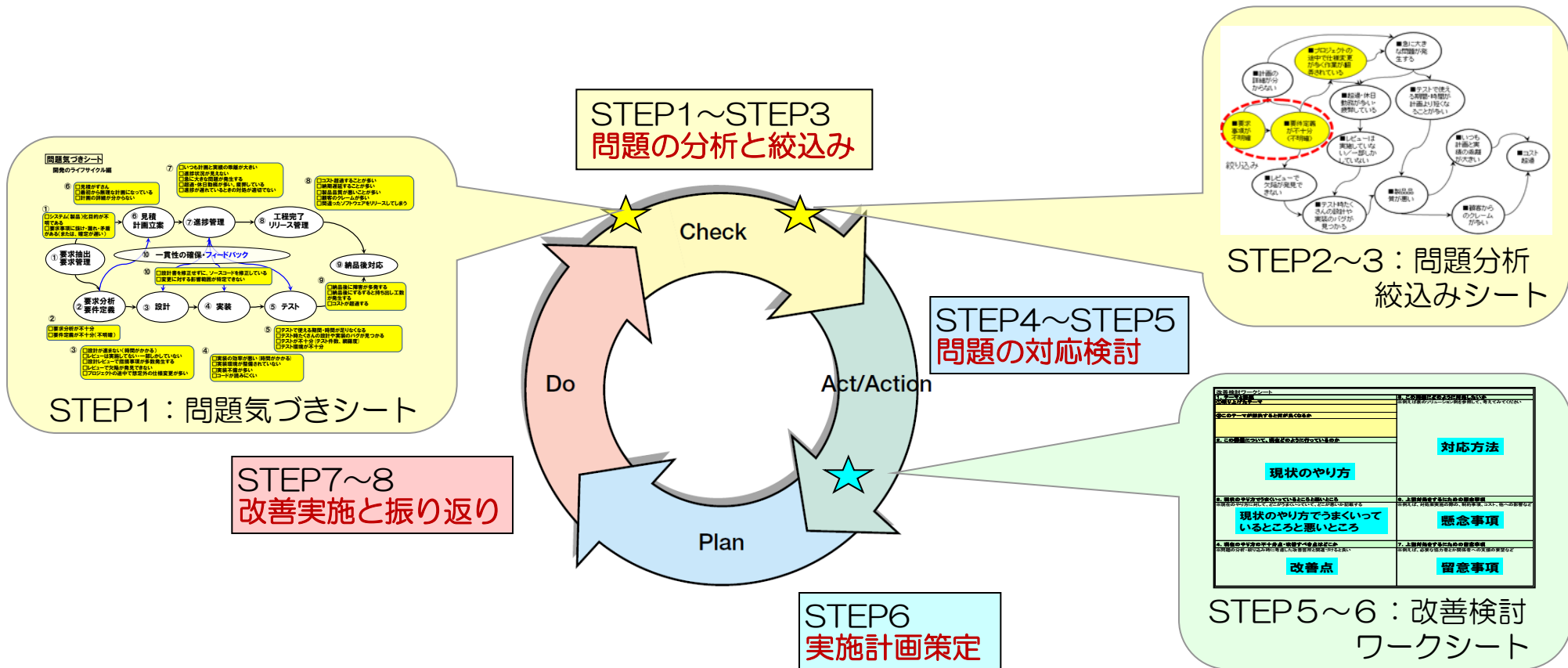
- ◆ 状況に合わせて改善の道具を使い分ける
 - アセスメントベース改善
 - 課題ベース改善
 - SPINA3CH等の活用

- 状況に合わせて、プロセスモデルや、プロセス技術を使い分ける

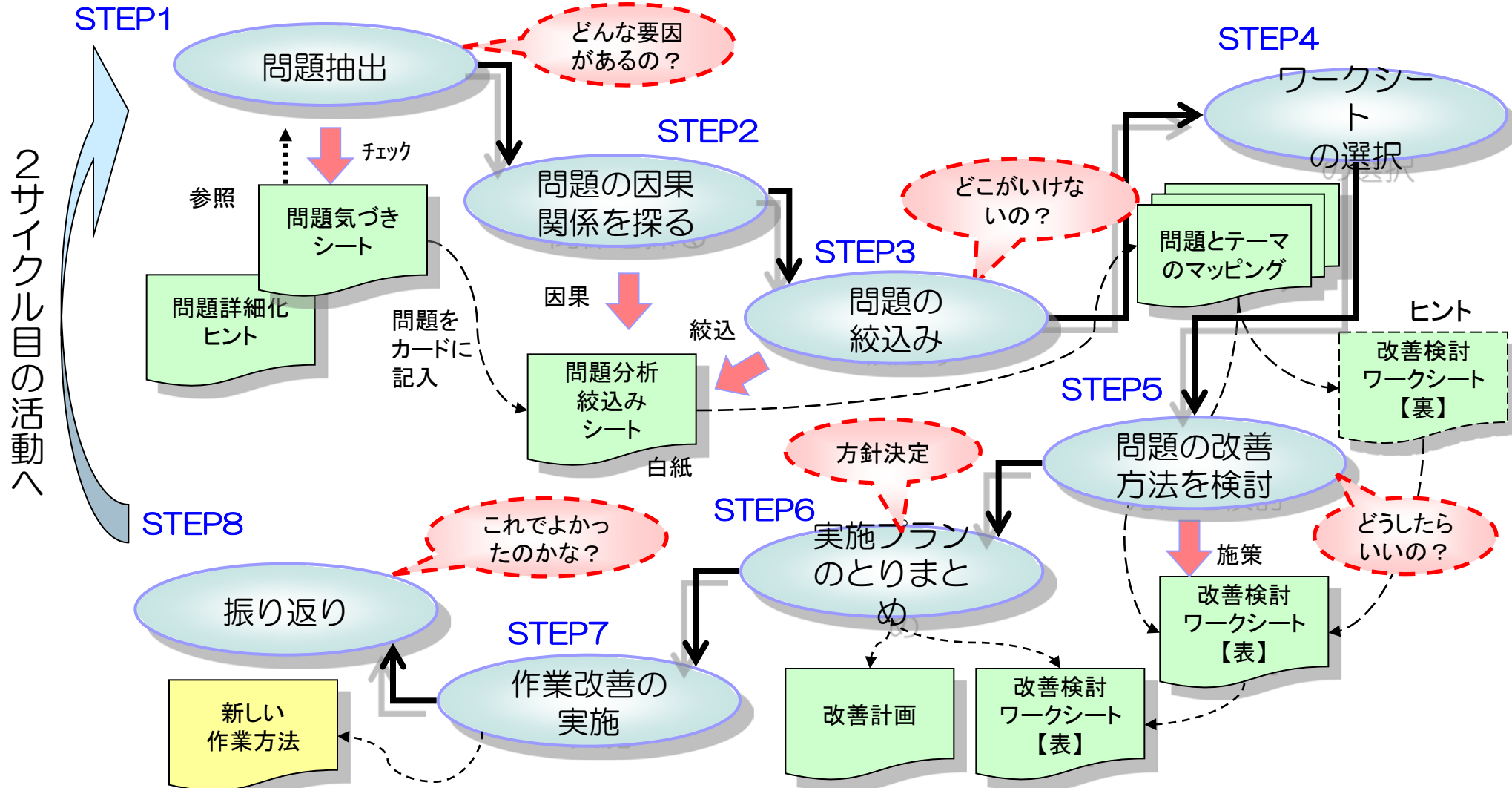
推進者に必要なスキル

◆ 自律改善メソッド SPINA³CH <http://sec.ipa.go.jp/reports/20110707.html>
(SPI with Navigation, Awareness, Analysis, Autonomy for Challenge)

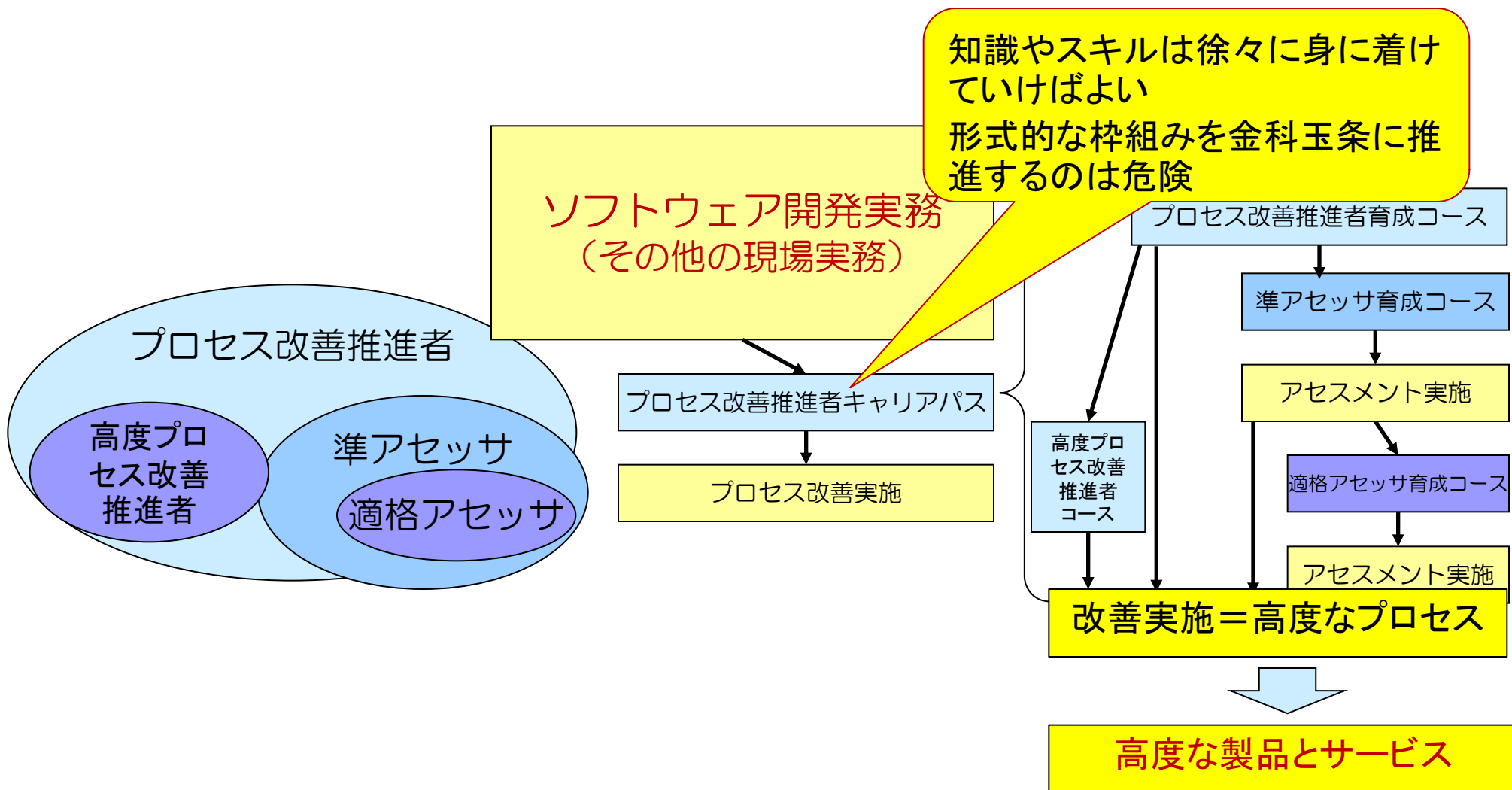
◆ 適用場面：漠然と問題を感じてはいるが、具体的な課題になっていない



◆ SPINA³CH: 実施のフロー



改善推進者のキャリアパス



- ◆ 虎の巻編の巻頭から
 - ◆ 明確な目的・目標を持つこと
 - ◆ 関係者の中で認識が共有されること
 - ◆ 現実的に進めること
 - ◆ 活動を継続すること
 - ◆ 全員が参画すること
 - ◆ 人が中心となること
 - ◆ 成功を分かち合うこと
 - ◆ 計画的に行うこと
 - ◆ 主体性を持つこと
 - ◆ 事実情報に基づいた行動をとること